

福岡市保健福祉局障がい者部 との話し合い

「ショートステイと将来に関する調査」
に基づいて

日時:平成22年9月17日(金) 13:00～14:00

場所:市役所12階 保健福祉局障がい者部

成人した障害のある子どものより良い暮らしを願う保護者の集まり

活動の動機

- 仲間のお母さんの急死
- 葬儀後、その仲間は遠く離れた入所施設に入所
- 大好きなお母さんを亡くした上に家族とも仲間とも通い慣れた事業所からも遠く離れ、日常生活まで激変
- どれほどの悲しみや混乱が彼女を襲っただろうと考えると、二度と誰にも、このような思いを味あわせてはいけないと痛感した
- その人が希望すればどんなに障害が重くても、親亡き後も、住み慣れた地域の中で、それまでの支援者とともに、尊厳を保ちながら生きていける社会でなければならない

アンケート概要

対象	3ヶ所の障害者生活介護事業所の利用者又はその保護者 事業所名 いるかワーク・ももち福祉プラザ・ゆい
配布数と回収率	配布数93部 回収63部 回収率 67.7%
実施日	平成22年5月18日
実施者	成人した障害のある子どものより良い暮らしを願う保護者の集まり 服部 美江子 並松 富美代 樗木 律子

一定のサンプルになりうると考える

ショートステイを必要と感じるとき

保護者の病気	92%
冠婚葬祭	69%
本人の宿泊体験	59%
保護者の休養	49%
保護者の仕事	25%

ショートをするのに望ましいところ

- 生活介護などで日頃親しんでいる場所 86%
- 本人の状況をよく把握した職員がいる場所 89%
- 入所施設 19%
- 必要なときに医療的ケアが受けられる場所 54%

ショートを利用したときの様子		
	日中通っておられる生活介護事業 所でのショート	それ以外の事業所
楽しそう	36%	19%
退屈	7%	21%
不安	0%	14%

記述部分より

1. 将来へのスムーズな移行

- ショートステイの体験が何度もできて親子ともども少ない不安で自立した暮らしに(ケアホーム等)移行していきたい。
- 将来は入所かGH・CHに入りたいと思うので親が元気なうちにスモールステップで本人に無理なく慣れるように支援してくれる人、機関のサービス等があればよいと思う
- 将来GH・CHで生活するためには環境の変化に弱い障害者にとっては数年という長い年月をかけて練習する必要があります。そのためには急に必要となったときはもちろんですが体験のためショートステイをする場所が何箇所か必要と考えます。ようやく1箇所見つけましたが月1回がやっとというのが現状です。本人の重荷にならない程度にいろんな場所で回数も増やしながら体験させたいです

記述部分より

2. ショートステイの現状と問題

- 毎月ショートステイを利用して離れて住む親の世話に通っていますが、それも**5ヶ月前に予約をしている状態**で、5か月後何があるかと合わせなくてはいけないのが大変です。突然の親の入院などのときは無理やりお願いしている。どうしてもできない時は家族の誰かが仕事を犠牲にして障害者の世話をするようになる。いつもの施設で多く預けられる体制の取れる福祉を望む
- **介護者の手術入院などどうしても必要なときに利用できず途方にくれたことがあります**。そういうときに利用できてこそその制度なのに使えないという現実がある。身内のない私にとってはありがたい制度ですので必要なときに使えるようになればなと思っています
- 保護者が元気でいられる限りは自宅で生活していかれるが、ショートステイの現状は不十分で粗末である。福岡市の担当者はもっとショートステイの現状を把握し、保護者が過労死しないよう対策を立ててほしい
- ショートステイの定員を増やして欲しい。現状では親の病気等でも利用されないことも多く障害の程度によっては親は大変な思いで病気と子どもと戦っています
- もしショートを利用したいとしても**遠いところにばかりで送迎だけで考えてしまいます**。医療ケアが必要な人を受け入れてくれるショートステイがあればよいと思います
- **保護者の体調不良でショートの間まで連れて行けないため**

記述部分より

3. その他

- 現在の福祉制度は障害を持たされた子の介護はまず親がするものという考えが根底にあるように思います。成人するまではそれも仕方ないかもしれませんが成人後は社会介護が前提と思います
- ショートステイもそうですが入所施設も不足しているのに行政は作らず、家庭でヘルパーを使って過ごすことを推進しているようだがヘルパーが24時間使えるわけではないので高齢になったとき在宅での介護は不安です

全ての親の願い

宝物のように育て、成人した娘が将来、親なき後も行き届いたケアを受け充実した生活ができればいいと心より願っています。

私たちが願うショートステイのあり方

- いずれケアホームが充実すれば解決する問題
- それまでの移行期間として考える
- 既に事業を行っている生活介護事業者で希望するところがあれば、居室整備費、宿泊も可能とする人員配置のための予算をつけ、志のある事業者が実施できるような支援体制
- 送迎がなくては利用できない人がたくさんいる。送迎を可能とする予算、またはガイドヘルプの利用を可能にしてほしい